

61st SCIENCE AND TECHNOLOGY
FILM/VIDEO FESTIVAL

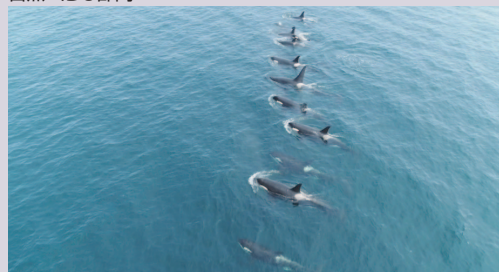
第61回

科学技術映像祭



文部科学大臣賞

自然・くらし部門



命巡る海 知床・シャチの楽園

研究・技術開発部門



伊勢湾台風60年 色と記憶

教育・教養部門



NHKスペシャル スペース・スペクタクル プロローグ はやぶさ2の挑戦

主催／(公財)日本科学技術振興財団、(公社)映像文化製作者連盟
(公財)つくば科学万博記念財団、(一財)新技術振興渡辺記念会
後援／文部科学省、**NHK**、(一社)日本民間放送連盟、(一社)日本新聞協会
(一財)日本視聴覚教育協会、(一財)経済広報センター
国立研究開発法人科学技術振興機構、全国科学館連携協議会
(公財)民間放送教育協会

■表彰式

科学技術館 サイエンスホール TEL: 03-3212-8487

4/17

■入選作品発表会

上映作品、プログラム等の詳細は各施設にお問い合わせのうえ、ご来場ください。
都合により、中止または延期になる場合もあります。

●科学技術館 TEL: 03-3212-8487

サイエンスホール 4/16～17

実験スタジアムR 5月～2021年3月

●つくばエキスポセンター TEL: 029-858-1100

4/14～19

●旭川市科学館 サイパル TEL: 0166-31-3186

4/1～2021年3/31 ※土日祝及び長期休暇中の平日に上映

●帯広市児童会館 TEL: 0155-24-2434

7/24～26

●はこだてみらい館 TEL: 0138-26-6000

4/13～19

●スリーエム仙台市科学館 TEL: 022-276-2201

4/11～5/6

●新潟県立自然科学館 TEL: 025-283-3331

7/18～8/30 ※土日祝のみ

●大洗わくわく科学館 TEL: 029-267-8989

4/15～19

●所沢航空発祥記念館 TEL: 04-2996-2225

5月、9月(上映日調整中)

●名古屋市科学館(主催:中部科学技術センター) TEL: 052-231-6723

調整中

●富山市科学博物館 TEL: 076-491-2125

7/4～9/13

●大阪科学技術館 TEL: 06-6443-5318

4/13～19

●5-Daysこども文化科学館(広島市こども文化科学館) TEL: 082-222-5346

11/14

●阿南市科学センター TEL: 0884-42-1600

8/12～16

●宮崎科学技術館 TEL: 0985-23-2700

6/2～21、7/21～8/3 ※7/27、8/30、8/11、8/17、8/24は休演

●鹿児島市立科学館 TEL: 099-250-8511

10/1～31



第61回 科学技術映像祭

科学技術映像祭は、優れた科学技術映像を選奨することで科学技術への関心を喚起するとともに、その普及と向上をはかり、社会一般の科学技術教養の向上に資することを目的として昭和35年より開催し、今回、第61回を迎えました。

第61回科学技術映像祭では「自然・くらし部門」「研究・技術開発部門」「教育・教養部門」の3部門に対し、製作者、企画者(スポンサー)、テレビ局、および学術研究機関など、計35機関から52作品(2019年1月1日から2020年1月24日までに完成または放映された作品)が出品され、審査試写ならびに討論の結果、11本の優秀作品と3本の主催団体賞を選定いたしました。

選定された作品には、内閣総理大臣賞(1作品)、文部科学大臣賞(3作品)、部門優秀賞(6作品)、特別奨励賞(1作品)、つくば科学万博記念財団理事長賞(1作品)、新技術振興渡辺記念会理事長賞(1作品)、科学技術館館長賞(1作品)が製作者ならびに企画者に贈呈されます。

第61回 科学技術映像祭入選作品

内閣総理大臣賞

自然・暮らし部門 人類 vs プラスチック ……4
企画・製作:RKB毎日放送株式会社

文部科学大臣賞

自然・暮らし部門 命巡る海 知床・シャチの楽園 ……5
企画・製作:NHK札幌放送局

研究・技術開発部門 伊勢湾台風60年 色と記憶 ……6
企画・製作:株式会社CBCテレビ

教育・教養部門 NHKスペシャル スペース・スペクタクル プロローグ はやぶさ2の挑戦 ……7
企画・製作:日本放送協会

部門優秀賞

自然・暮らし部門 メ〜テレドキュメント 常滑エピテーゼ カタチとところ ……8
企画・製作:名古屋テレビ放送株式会社

自然・暮らし部門 どこに ひなんすればよいの? 南海トラフ地しん 大つ波がくる ……9
企画・製作:株式会社映学社

研究・技術開発部門 映像'19 未来医学者 世界初“iPS心筋”の10年 ……10
企画・製作:株式会社毎日放送

教育・教養部門 ダイオウイカ大解剖 巨大生物 進化の謎 ……11
企画・製作:株式会社ソーダック

教育・教養部門 ガリレオX 科学における仮説とはなにか 仮説が世界を前へと進める ……12
企画・製作:ワック株式会社

教育・教養部門 深海VR - 海底に降り立つ ……13
企画・製作:国立研究開発法人海洋研究開発機構

特別奨励賞

教育・教養部門 礼文 日本最北の「遺跡の島」 ……14
企画:礼文町教育委員会／製作:北海道映像記録株式会社

つくば科学万博記念財団理事長賞

教育・教養部門 NHKスペシャル スペース・スペクタクル プロローグ はやぶさ2の挑戦 ……7
企画・製作:日本放送協会

新技術振興渡辺記念会理事長賞

研究・技術開発部門 ガリレオX 電気をつくる菌・食べる菌 研究進む! 電気微生物の世界 ……15
企画・製作:ワック株式会社

科学技術館館長賞

教育・教養部門 日本のチカラ 宇宙はみんなのもの ~日本初! 民間ロケット成功の先~ ……16
企画:公益財団法人民間教育放送協会／製作:北海道放送株式会社

科学技術映像祭に干支は関係ないと思いつつも、61回目となれば「一回りして、また新たなスタートだ」と感慨を覚えずにはいられない。この間、社会も技術もどれほど大きく変化したことか。さまざまな媒体の位置づけも時とともに変わってきている。それでも、自然の神秘、科学の新発見、科学者や技術者の奮闘をわかりやすく、あるいは面白く見せる映像の価値は微塵も変わらないと改めて気づく。それどころか、科学技術が社会に深く浸透するにつれ、市民に伝わる映像の必要性はより増している。新たなスタートに当たり、関係者はそれを肝に銘じるべきだと思う。

今回の出品は、第60回(24機関、42本)から大幅に増え、35機関から52本だった。インターネット配信用の作品の増加や、VR(ヴァーチャル・リアリティ)やCG(コンピューター・グラフィック)などの新しい情報技術を取り入れた作品が目についた。

予備審査を通過したのは、自然・暮らし部門6本、研究・技術開発部門7本、教育・教養部門11本で、このすべてを12人の審査員が鑑賞して点数をつけ、採点結果を見ながら討論と投票を重ねた。

内閣総理大臣賞には福岡県RKB毎日放送の「人類vsプラスチック」が選ばれた。いま最もホットなプラスチックごみ問題を、あの手この手のユニークな演出で軽妙に見せた点が高く評価された。輸入されたプラスチック廃棄物がうずたかく積まれたベトナムや環境教育の先進国ドイツなど、海外取材もツボを押さえており、この問題を多面的に考える機会を提供してくれる。

文部科学大臣賞は3作品。「伊勢湾台風60年 色と記憶」は愛知県CBCテレビの作品だ。死者5000人を超す大災害の記憶も徐々に薄れていく中、当時のカラー写真が2019年に見つかったことから、AI技術を使ってテレビ局が持つ白黒映像に色をつけた。着色には正確性の点で問題もはらむが、実際に体験した人たちからの証言も得られ、タイムリーで貴重な作品となった。

「NHKスペシャル スペース・スペクタクル プロローグはやぶさ2の挑戦」は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)からはやぶさ2の座標データなどを得てライブでCG化していくという史上例にない技術を実現化した点が特筆される。ミッションの困難さもよく伝わってきた。

「命めぐる海 知床・シャチの楽園」は、シャチを詩情豊かに追う美しい映像が素晴らしかった。ただ、生物学的な解説があまりなく、90分という長い番組だけにもう少し工夫が欲しかった。

部門優秀賞には「深海VR—海底に降り立つ」というインターネット配信の動画が入った。見ている人の操作でカメラの向きを変えられるという双方向性がある。深海の映像も貴重なもので、短い作品でも十分な価値を持つと評価された。

「ダイオウイカ大解剖 巨大生物 進化の謎」は、日本各地の漁師たちの目撃証言などを絡めながらダイオウイカの解剖に臨む研究者たちを追う。この次は、解剖して何がわかったかをしっかり説明する番組を見たい。

「ガリレオX 科学における仮説とはなにか 仮説が世界を前へと進める」は、科学哲学の難解なテーマに挑んだ作品。「ガリレオX 電気をつくる菌・食べる菌 研究進む! 電気微生物の世界」「ガリレオX 農業と漁業の融合 アクアポニックス 水と物質を循環させる新しい取り組み」と合わせてガリレオXはいずれも高い評価を得たが、科学の本質を考えようというこれまでの科学番組にないアプローチの本作品に称賛が集まった。

「メ〜テレドキュメント 常滑エピテーゼ カタチとこころ」は、人工乳房などの装具「エピテーゼ」をつくる愛知県常滑市の小さな会社と交通事故で全身におおやけどを負った女性の物語。事故の悲惨さに胸が詰まるが、自分に合ったエピテーゼをつけて元気を取り戻していく様子は感動的だ。「映像'19 未来医学者 世界初“iPS心筋”の10年」は京都大学の山中伸弥教授と大阪大学の心臓外科医・澤芳樹教授の10年にわたる共同研究の記録。臨床応用までの道は遠いことも実感させる。

「どこにひなんすればよいの? 南海トラフ地しん 大つ波がくる」は、小学校低学年向けの作品。クイズ形式で、学校の先生ならそこで映像をとめて児童に手を挙げてもらうこともできる。東日本大震災での悲劇を繰り返さないためにも、こうした映像教材を有効活用してほしい。選には漏れたが、小学生に認知症を知ってもらおう「「やさしく」の意味 おばあちゃんは認知症だった」も多くの小学生に見て貰いたい佳作だった。

特別奨励賞の「礼文 日本最北の「遺跡の島」」は、オホーツク圏の縄文文化を礼文島の出土品などを手掛かりに蘇らせる。淡々とした作りながら、あまり知られていない情報が詰まっていることから授賞が決まった。ほかの地域の教育委員会もこうした作品づくりに挑んでほしいという願いを込めての特別奨励賞である。

「重監房資料館開館五周年記念作品遺族ふたりパート1、パート2」は残念ながら選外となったが、これまでほとんど表に出てこなかったハンセン病患者の家族や子孫が撮影に応じ率直に語る、優れたドキュメンタリーだったことを最後に記しておきたい。

人類 VS プラスチック

企画・製作：RKB毎日放送株式会社

製作：チーフディレクター 松井聡史、ディレクター 田尾彩美・筒井浩
プロデューサー：高藤秋子／撮影：岡友和



プラスチックをゲストにスタジオ展開 TV:52分

製作意図

捨てられたプラスチックが海に漂い、海洋汚染が深刻になっている。まさに今地球の脅威になっていることをどれほどの人が知っているだろうか。それは決して遠い出来事ではない。原因をつくっているのは便利さを享受してきた私たちである。海の現状と、被害を知ってもらうこと、そして、暮らしの中で今すぐに出ることを提示したかった。これまで環境問題に関心のなかった人にも興味をもってもらうため、プラスチックを擬人化するなど構成や展開にも工夫した。

シノプシス

一見美しい福岡市の海。しかし近づいてみると、プラスチックごみや細かく砕けたマイクロプラスチックが散乱していた。30年後には海を漂うプラスチックの量が魚を上回るという。生物への被害だけでなく、魚を通して人間の体内にも取り込まれているとの研究結果も明らかになった。世界は今、プラスチックを使わない、作らない方向に舵をきっている。番組では、芸人が脱プラ生活に挑戦。エコ先進国ドイツの取り組みに加え、ベトナム・プラスチック村の驚くべき状況も紹介する。

受賞に際して

受賞の知らせを受けたのは、ソーシャルビジネス取材するためバン格拉デッシュに向かう途中でした。現地で貧困の解決に取り組む日本企業の方に言われたのは「取材を通して、今地球で起きている社会問題を知ってほしい」ということ。とても共感できる言葉でした。プラスチックによる環境汚染の解決も同じだと考えていたからです。まずは「知る」こと、その次に「行動」を起こすことが大切だと思います。今回番組が受賞したことで、“海の生物への被害” “人間も体内に取り込んでいるかもしれないという衝撃” “日本のプラごみが東南アジアに輸出されている事実” “海外では若い世代が率先して問題解決に取り組んでいる驚き”をより多くの人に伝えるチャンスが広がりました。これが最大の喜びです。立派な賞を授かったことを嬉しく誇りに思います。ありがとうございました。（松井聡史）

命巡る海 知床・シャチの楽園

企画・製作：NHK 札幌放送局

語り：音尾琢真、工藤恵里奈／朗読：白崎義彦／撮影：箱崎将史、稲益寛、佐藤寿康／音声：嶽山亮平／音響効果：三村俊之
編集：遠藤晃弘／ディレクター：重田竣平、和田雄三／制作統括：玉村徹、黒田未来雄、橋本太郎、高橋克昌



突如現れた数十頭のシャチの大集団 TV:89分

製作意図

北海道が誇る世界自然遺産・知床。この海には毎年400頭を超える海の王者・シャチが現れます。シャチは世界各地に広く生息していますが、知床は屈指の生息密度。一体、シャチは何に導かれ知床に現れるのか。そして突如として大群で出現し繰り広げる謎の行動の意味とは？ 神秘に包まれたシャチの生態を研究者とともに解き明かすとともに、4Kドローン、水中カメラ、ハイスピードを総動員した圧倒的な映像美で知床の自然を伝えたいと企画しました。

シノプシス

世界自然遺産・北海道知床。この海には毎年たくさんの生きものがやってくる。大群のイシイルカに巨大なナガスクジラ。そして海の生態系の頂点に立つシャチ。アイヌの人々はこの地を“神々の遊ぶ庭”と呼んだ。北の海から押し寄せる流水が栄養分を運び、世界でも稀な豊かな海を作り出す。移ろう季節の中で様々な生きものたちが織りなす命のドラマ。4Kカメラの迫力ある映像と、俳優・音尾琢真のナレーションで知床の大自然に迫る。

受賞に際して

このたびは名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。制作スタッフを代表して厚く御礼申し上げます。世界自然遺産・知床羅臼の大自然を高精細映像で捉えた本番組のメインは、海の王者・シャチです。企画が立ち上がった当初、羅臼沖のシャチに関する科学的知見はまだ乏しく、手探りの中で2年に亘り撮影を続けました。その中で、海を知り尽くした地元漁師、観光船事業者、自然ガイドの方々、そして研究者の方々の英知を結集し、私たちも4Kドローンや深海カメラなどを駆使して様々な角度からシャチを追いかけてきました。他に類を見ない知床の豊かな生態系は、地球の宝です。一方で、それが奇跡的なバランスの上に成り立つ、非常に繊細なものでもあることも、研究によって明らかになっています。この神秘の営みに多くの人に興味を持ってもらうことで、知床の科学研究が支えられ、解明が進み、ひいてはその保全につながっていくことを願います。

(重田竣平)

伊勢湾台風 60 年 色と記憶

企画・製作：株式会社 CBC テレビ

製作：有本整／撮影：小池尚弘



水没した名古屋市南区 TV:50分

製作意図

1959年9月26日に東海地方を直撃した伊勢湾台風では死者5098人、負傷者は約3万9千人。その後、災害対策基本法の制定や全国の堤防を整備する契機となるなど「日本の防災の出発点」になりました。しかし60年が経過して体験者も減り、その記憶も薄れつつあるのが現状です。そこで私たちは、白黒のフィルム映像を最先端のAI技術によってカラー化することで、体験者には鮮明な記憶を呼び覚ましてもらい、若い世代には「本当にあった現実」として実感してもらい、「備え」の重要性を訴えたいと考えました。

シノプシス

60年前の1959年は、皇太子のご成婚をはじめ経済成長に活気づく日本の姿があった。しかし、その年の9月に直撃した伊勢湾台風は、名古屋市南部を飲み込んだ。港の貯木場のラワン材が多くの人々の命を奪った。その様子を写したカラー写真が2019年、初めて見つかった。CBCは筑波大学の人工知能科学センターと契約を結び、見つかった写真の色も取り込み、所蔵する白黒フィルムをAI技術でカラー化することに成功。その惨状が改めて胸に迫ってくる。その

映像には、今の子どもたちも息を飲むことに……。

受賞に際して

この度は過分なるご評価をいただき、誠にありがとうございます。伊勢湾台風は、災害の多い日本においても、災害対策基本法制定の契機となりテレビ・ラジオ報道が初めて本格的に災害報道に取り組むこととなった「防災の出発点」ともいえる出来事です。自分が生まれる前の災害ではありますが、毎年取材をする度に印象的だったのが、大勢の命が奪われた嵐の翌朝が抜けるような青空だったと吐露する体験者の言葉でした。その「青」をよみがえらせることで今一度60年前の台風を思い起こし、台風や来るべき巨大地震への備えを考えるきっかけにと、この番組を制作致しました。取材に際しては体験者の方々、カラー写真の提供者はもちろんのこと、とりわけ映像のカラー化技術を研究されている、筑波大学・人工知能科学センターの飯塚里志助教のご尽力で無事完成に漕ぎつけられたことを感謝いたします。 (有本整)

NHKスペシャル スペース・スペクタクル プロローグ はやぶさ2の挑戦

企画・製作：日本放送協会

製作：北野和宏、佐藤稔彦、松尾建／演出：筒井芳典、小木寛、丸山優二／撮影：牟田俊大
研究者：國中均(スタジオ出演)、津田雄一ほか／JAXA



はやぶさ2 着陸時の実際の飛行ルート。可視化システムを開発して映像化した。(©JAXA／NHK) TV:49分

製作意図

初代はやぶさの着陸失敗。そのリベンジを期した「はやぶさ2」の初着陸までのすべてを描く。最前線となったJAXA管制室を独占取材。次々と襲いかかる想定外をいかに乗り越えたのか。史上初の着陸までの「科学者たちの1年間」に密着する。更に、画期的な試みとしてJAXAとNHKの技術陣がタッグを組み「はやぶさ2可視化システム」を開発。惑星間を伝送されてきた飛行データから、機体の動き／小惑星の地形／背景の星空／太陽光まで全てを現実のままにCG映像化。居ながらにして3億km彼方の宇宙冒険を体感する。

シノプシス

「私たち生命はどこからきたのか？」この謎を解くため、はやぶさ2は“小惑星のカケラ”の採取を目指す。だが、到着した星は想定外。星の形は球でなく菱形で、いたる所3m大の岩で覆われ着陸場所が無い。偵察のため降下を試みると、機体が異常を検知し緊急離脱… 打ち続く試練に、着陸は半年も延期。だが日本人科学者は諦めない。43才の若き総責任者・津田雄一プロマネは、トラブルには勇気を

持って撤退し、新たな作戦を立て、果敢に挑戦を続ける。だが大勝負の日、着陸に向け降下指令を送ると…そこに更なる想定外が待っていた。

受賞に際して

「“やめる”ということは非常に簡単な決断なんです。“やめない”で次に進めるとしたら、どんなことができるだろう…」着陸を目前にした異常事態での、総責任者の津田プロマネの言葉です。新たな地平を切り拓くには、未知の世界に挑戦しなければなりません。ですが、1つ誤れば大失敗、その結果すべてを失います。でも失敗を恐れ、挑戦をやめれば、未来への進歩の道が閉ざされます。私たちは日々、結果にとらわれ暮らしています。ですが大切なのは結果そのものではなく、結果に至るプロセスです。未知と向き合い、想定外の試練に見舞われようとも、考え、行動する。このプロセスこそ、科学を現代の高みに至らせたフィロソフィー。未来に伝えるべき貴重な財産です。それを「現在進行形の」宇宙探査の中で、番組で表現できたことは、幸運でした。改めて番組に賛同いただいたJAXAはじめすべての方々に、心から感謝申し上げます。(統括プロデューサー／北野和宏)

メ〜テレドキュメント 常滑エピテーゼ カタチとところ

企画・製作：名古屋テレビ放送株式会社

製作：村瀬史憲／演出：石神愛子／撮影：鈴木崇義



マエダモールドの人工乳房 TV:52分

製作意図

硬い陶器と柔らかな人工乳房。この意外な組み合わせに心を惹かれ、取材を始めました。当初の意図は零細企業の新規事業でしたが、エピテーゼ部門の責任者、前田一美さんが番組を豊かにしていきました。彼女にとって、人工乳房を患者に届けることは、自らの生き甲斐を取り戻すことでもありました。事故で全身にやけどをした森亜美さんの目標は、自分と同じように大きな怪我をした人の役に立つ仕事をするということです。二人の女性が、エピテーゼを通して生き甲斐を再発見していく物語を描きたいと思い番組を制作しました。

シノプシス

失われた体の部位を補う装具を“エピテーゼ”と呼びます。愛知県常滑市にあるマエダモールドの工房を覗くと、本物そっくりの“おっぱい”が並んでいます。人工乳房です。人工乳房の役割は、「温泉に入りたい」というささやかなものから、乳房の切除に踏み切るきっかけまで様々。エピテーゼは人工乳房だけではなく。交通事故で全身に大火傷を負った女性から依頼がありました。「過去は変えられない

けど、未来は変えられる」と話す女性。常滑の小さな会社が作ったエピテーゼには大きな役割がありました。

受賞に際して

歴史ある賞に選んでいただき、スタッフを代表してご関係の皆様へ感謝申し上げます。形を伴う道具や製品には「使う人の人生を豊かにしたい」という思いが込められています。取材したマエダモールドの職人たちは、依頼者の生活を想像し、時には人生にまで思いを馳せ、最良の「形」をエピテーゼに投射していました。気持ちだけではなく、高い技術力があるからこそ実現できることです。病気やけがで体の一部分を失ってしまっても、本物そっくりのエピテーゼがあることで、取り戻せる人生がある。そのことに番組を見た人が気づき、少しでも勇気を取り戻してくれることを、取材に応じて下さった皆さん、そして私たち制作スタッフは望んでいます。
(プロデューサー村瀬史憲)

作品情報 <https://www.nagoyatv.com/document/entry-16606.html>

どこに ひなんすればよいの？ 南海トラフ地しん 大つ波がくる

企画・製作：株式会社映学社

製作：高木裕己／脚本・演出：川崎けい子／撮影：照屋真治、森木知宏、千葉英明／研究者：今村文彦



クイズ形式で津波について学んでいく 映画・ビデオ:19分

製作意図

南海トラフ地震は、大津波が短時間で広範囲の沿岸各地を襲うことなどから、東日本大震災を上回る大災害になるのではと懸念されています。本作品では、南海トラフ地震の大津波が来襲したときに何が起こり、どのような危険がもたらされるかについて、東日本大震災の教訓をふまえて子どもにもわかりやすく示します。次に、津波が予想されるときにどのように行動すべきか、そのポイントと心がけを紹介します。津波から生き延びるために何ができるのかを子どもたち自身で考え、行動するための一助となることを目指します。

シノブシス

大きな被害をもたらす津波について、発生の仕組みや性質を説明する。また、津波発生時に命を守るため、高いところに逃げる、川の側を避ける、避難したら戻らないという3つのポイントについて、クイズ形式で説明する。そして、津波から命を守るための心がまえについて考えていく。津波がきたらどう行動するかを普段からよく考えておき、家族、友達、そして地域の人たちといっしょに備えておくことが大切であることを訴える。

受賞に際して

この度は大変栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。私がこれまで防災教育の作品を作り続けてきて感じたことは、子どもに防災の知識を身につけさせる際、いざという時はマニュアルにとらわれず常に何が最善かを考えさせ、どんな状況でも必ず生き残るんだという強い意志を持って行動させるべきだということです。その為にはまず、地震や津波に関する性質や特徴などの基礎知識や、それらが発生したら、いつ・どこで・どのように避難するかを正しく教えることが重要だと考えます。そういったことを踏まえて、本作では早期に適切な避難をすれば、人的被害をゼロにすることが可能であることを伝えています。今後も視聴者にとってわかりやすい、説得力のある作品づくりに努めて参ります。

(高木裕己)

作品情報 <http://www.eigakusya.co.jp/newpage4.html>

映像'19 未来医学者 世界初“iPS 心筋”の10年

企画・製作：株式会社毎日放送

製作：橋本佐与子



2008年共同研究を始める山中教授と澤教授 TV:50分

製作意図

大阪大学心臓血管外科の澤教授が、筋芽細胞で作成したシートで心不全患者の治療を世界で初めて行ったのは2007年。京都大学の山中教授が、iPS細胞の誕生を明らかにしたのはその前年の2006年。日本を代表する大学でそれぞれ臨床と研究でトップを走ってきた2人の医学者は10年余り前、共同研究に乗り出した。そしていま、心臓病のシート治療は保険適用され、iPS細胞で作成する心筋シートによる臨床試験が始まろうとしている。日本を代表する2人の医学者が語るこれからと“未来”とは。

シノプシス

MBSは、筋芽細胞シート治療1例目の男性患者の取材を単独取材。この治療が成功した直後、澤教授と山中教授との共同研究が始まった。心筋シートは、ほかの疾患より患者の体内に入るiPS細胞の数が桁外れに多く、副作用を懸念する声もある。番組では約10年前、共同研究を始めた2人が当時、想定していた再生医療の未来図と、研究を重ねたうえで見えてきた現実、課題、そして新たな展望とこれからの再生医療のあるべき姿を伝える。

受賞に際して

この作品を選んでいただき心より感謝申し上げます。2007年、心筋シートの取材を始めた時はiPS細胞を使った臨床研究が“いつか”始まるだろう、と漠然と思い浮かべることはできませんでした。その“いつか”が目前に迫り、放送から約1年後の2020年、ついにiPS心筋細胞を使った一例目の移植が行われました。命に直結する心臓の治療はリスクも大きく、常に注目と批判を浴び続けます。未知の治療に挑む医師たちと、治療に希望を託す患者さんがいて、医学は進歩してきました。再生医療の過去と未来に思いを馳せながら番組を視聴していただけると嬉しいです。

ありがとうございました。

(橋本佐与子)

ダイオウイカ大解剖 巨大生物 進化の謎

企画・製作：株式会社ツードッグ

演出：元木伸一／撮影：日本水中映像・オーシャンクロス

研究者：窪寺恒美(国立科学博物館)、成島三長(三重国立大学病院)



ダイオウイカ大解剖 映画・ビデオ:50分

製作意図

日本の財産とは何だろうと考えた時に、見逃してしまうものがある。それは「日本の海」の存在。海流の通り道でもある日本の海は多種多様な生態系が生息し、世界に類を見ない極小生物から巨大生物までが棲む。その中で巨大生物の代表が「ダイオウイカ」。この幻の巨大生物は西洋では「クラークン」として恐れられ、生態系はまだ分かっていない。この作品を通じて、日本の海に棲むダイオウイカの知られざる生態には人類に役に立つ未知の可能性が秘められていることを伝えていきたい。

シノプシス

作品は日本の海域で幻の巨大生物「ダイオウイカ」を探すことから始まる。沖縄での目撃情報を手掛かりに、頭足類研究第一人者・国立科学博物館・窪寺博士と共に生息範囲を絞り込んでいく。日本海に目撃情報が多数あることから富山湾で巨大生物との遭遇を待つ。長期に渡る取材期間の中で、偶然ダイオウイカと遭遇し、手で触れる距離での撮影に成功。さらに生態の謎を解明すべく三重国立大学病院・成島教授率いる医学研究チームとダイオウイカ

の解剖を実施。その模様を世界で初めて4Kにて撮影。未知の生物に秘められた謎に挑む研究チームの姿を追った。

受賞に際して

今回の受賞につきまして、厚く御礼申し上げます。ダイオウイカは西洋では「クラークン」として知られる伝説の生物です。一般的には「巨大」で「奇異」な生物。深海のミステリーという認識があるかと思います。しかし、そのダイオウイカは日本海域に生息する身近な海の仲間だったので。私たちが出会ったダイオウイカの泳ぐ様は、とても優雅で、神秘的で、時空を超えて幻想の世界へと誘ってくれます。きっと何億年と紡がれてきた命の尊さを感じると思っています。この貴重な映像を通じて、無脊椎動物への理解が深まり、更には「海」という存在に対して、もっと謙虚に、もっと愛情を持って接していけば、そこに生きる命たちは必ず未来へ紡がれていくものだと信じています。日本の方をはじめ海外の方へ、「日本の海」は多様な生命を宿す「生命のゆりかご」であることを伝えていきたいと思っています。

(監督/プロデューサー 元木伸一)

作品情報 <http://kraken.main.jp>

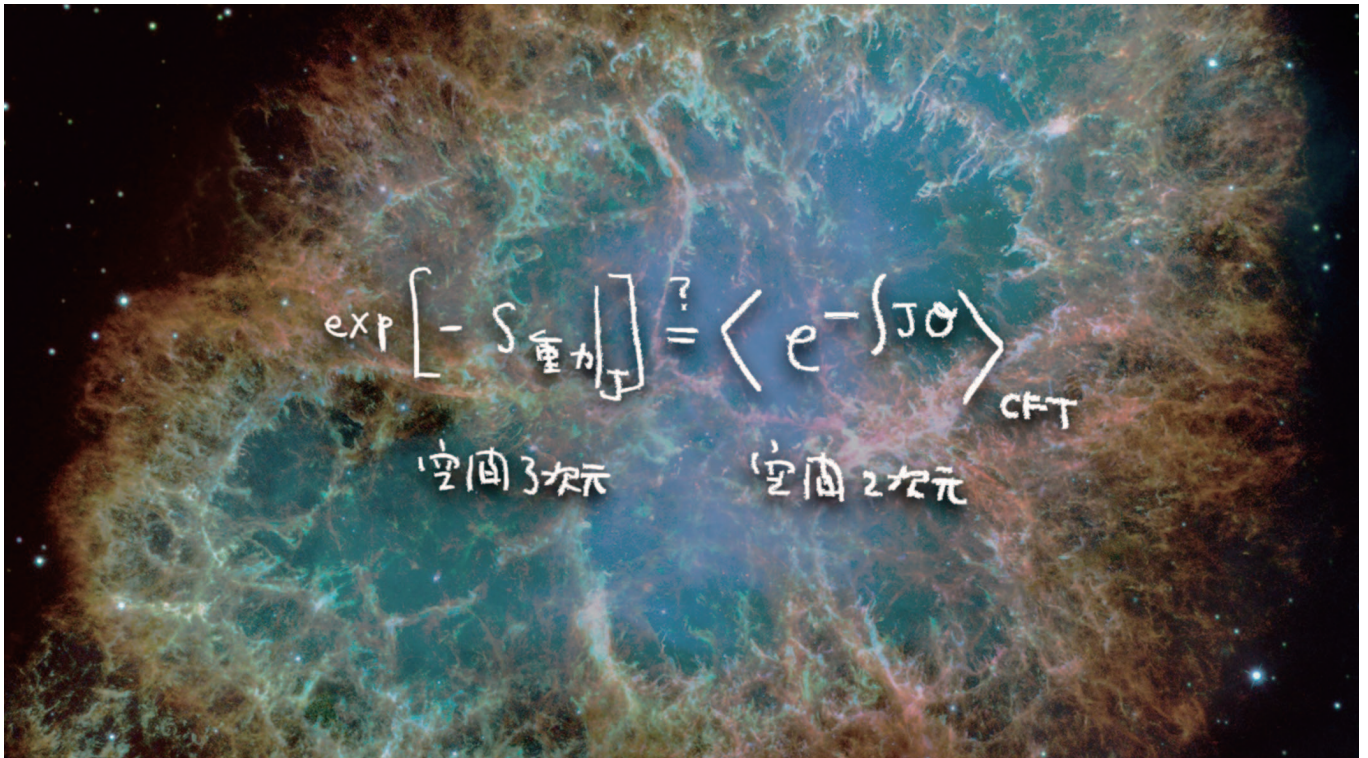
ガリレオX

科学における仮説とはなにか 仮説が世界を前へと進める

企画・製作：ワック株式会社

製作：太田洋昭／脚本・演出：泉大知／助手：岩木達哉／撮影：川村麻衣、本間秀幸

研究者：伊勢田哲治(京都大学)、中沢弘基(物質・材料研究機構)、橋本幸士(大阪大学)、古川善博(東北大学)



科学における仮説とはなにか TV:25分

製作意図

すぐに検索して答えを求めてしまう時代だが、当たり前にも思われるような知識の前提には実は多くの仮定や仮説があり、「世界は仮説でできている」と言っても過言ではない。そこで、「科学的な仮説とはそもそもなんだろう?」を考えたいと思い企画した。宇宙論や生命起源の最新仮説を紹介したかったので、全宇宙の空間が幻だとするホログラフィー原理と、隕石の海洋衝突による化学反応で生命材料が生まれたという仮説に取材した。また仮説の歴史を科学哲学から見る視点を加えることで、仮説と研究の地道な積み重ねこそが近代科学の土台になっていることが伝わるよう工夫した。

シノプシス

仮説とは「その真偽をとにかくとして何らかの現象や法則性を説明するのに役立つ命題」とされている。文明の誕生以来、私たちは見上げた星空の動きや、生命の起源など、世界の不思議を読み解こうと思案を重ねてきた。そして19世紀を過ぎてようやく、データを集め、仮説を立て、予測をし、実験や観察によってそれを確かめるという「科学的な」研究方法を手になじませたことで、科学は目覚ましい進歩を遂げることになる。歴史を紐

解きながら、いま注目される最新の仮説を紹介し、科学における仮説とは何かについて考える。

受賞に際して

「仮説によると○○」とか「あくまでも仮説」などと常用されるわりには、仮説について私たちは知らない。しかもほんの200年前まで、世界の仕組みを、事象の真理を知るためにはひたすら自然という対象を「観察」し続けるしかなかったという。そういえば個人的な体験だが、幼年の頃に星の運行の不思議さに心をとられ、育った福島県の実山でただひたすら観察を続けた記憶がある。見続けていれば何かがわかる気がしていた。科学史上に「仮説」が使われるようになったのは、目に見えない原子や分子、細菌などの現象を説明する必要性が出てきたからだという。そういえば小学生の頃、メダカの受精卵を観察する授業で、まだ習っていなかった遺伝子的な何かの仮説を立てて独り大興奮した記憶がある。あれが科学への目覚めだったか、個人的に観察から仮説への科学的な大転換を追体験できたのかもしれない。この度は栄えある賞を頂きありがとうございました。(泉大知)

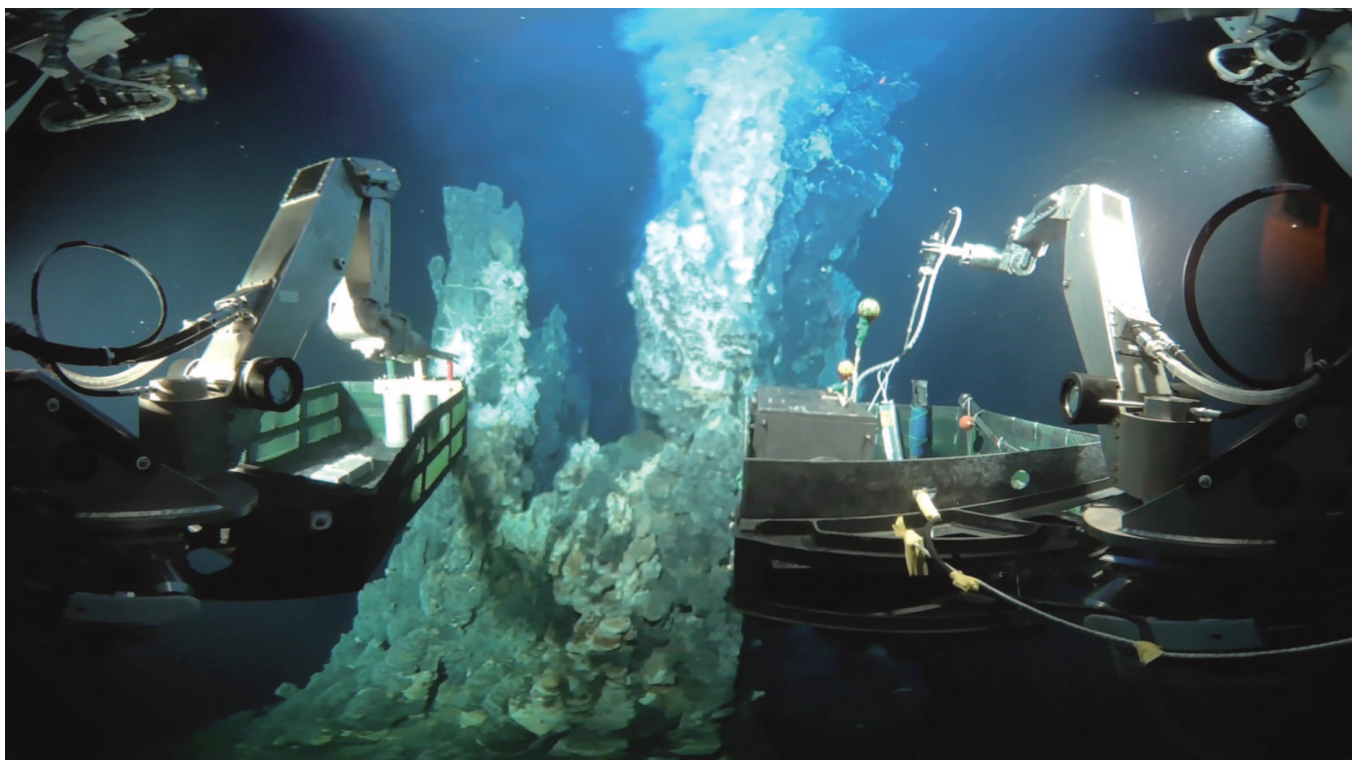
作品情報 http://web-wac.co.jp/program/galileo_x/

深海 VR — 海底に降り立つ

企画・製作：国立研究開発法人海洋研究開発機構

監修：吉梅 剛、川口慎介、CHEN Chong / 撮影協力：国立科学博物館

映像制作 Producer：待場勝利、玉置 淳・Director：内藤裕太



海底から突き出した巨大熱水噴出孔(通称チムニー) インターネット等で配信されている動画:7分

製作意図

JAMSTECと国立科学博物館が開発した「深海360度カメラシステム」を、有人潜水調査船「しんかい6500」などに搭載し、1,000mを超える深い海で360度映像を撮影することに成功した。JAMSTECは、海洋科学技術の総合的な研究機関として様々な研究開発を行っている。そこで、研究の現場でもある、限られた人しか到達したことのない深海の世界を、皆様にも興味を持って知っていただきたい。そんな思いから360度全方位に広がる深海の世界を体験できるコンテンツを企画した。

シノプシス

「海」それは地球の7割をおおっていて、海の93%が深海である。人類は、海をわたって広がり、生活を豊かにするために海に挑み続けてきた。しかし、人類が把握している海底は全体の約10%に過ぎないと言われている。では、深海とはいったいどんな世界なのだろうかー多様な深海生物、頭上に突き立つ熱水噴出孔、漆黒に広がる海底、360度映像ならではのあたかも自分が深海に降り立つような臨場感で極限の世界に迫る。

受賞に際して

栄えある賞をいただき、関係者一同大変嬉しく思っています。深海にはまだまだ知られていない謎がたくさんあります。今回開発した「深海360度カメラシステム」を使うことにより、これまで見えなかった広範囲の映像を撮影することができ、新しい発見につながるのではと期待しています。360度映像と特殊なコンテンツとなりますが、ぜひ体験いただき「海」について興味を持っていただけると幸いです。

(JAMSTEC 荻田善之)

作品情報 http://www.jamstec.go.jp/j/jamstec_news/vr/

礼文 日本最北の「遺跡の島」

企画：礼文町教育委員会／製作：北海道映像記録株式会社

製作：馬場勉／脚本・演出：安藤昇三／撮影：久堀晴之



礼文島空撮 映画・ビデオ:16分

製作意図

2019年5月、国立科学博物館は、縄文人女性の人骨の歯からDNAを取り出し全ゲノム(遺伝情報)の解析に成功。正確な縄文人の顔が復元されると共に縄文人の起源に関わる謎が続々と解明される。この解析の大きな決め手となったのが、縄文人の人骨の保存状態の良さ。北海道・礼文島の船泊遺跡から発掘されたものでした。日本最北の「遺跡の島」・礼文島。この島には数多くの遺跡があり、考古学や人類史の研究においても貴重な島であることを広くアピールするために映像制作を行った。

シノプシス

約4千年前、利尻富士が聳える海を悠々と渡る人々の姿があった。縄文人と呼ばれる人達。彼らが目指したのは日本最北の島、礼文島。縄文人達は一体何を求めこの島に渡り、どんな暮らしをしていたのか。島内に残された遺跡と出土品から見えてくるのは縄文人達の高い技術と豊かな精神性、そしてダイナミックな交易を行う姿。「世界的に見ても貴重な遺跡」と評価される礼文島の遺跡。礼文島が縄文人やオホーツク人が行き交う文化のクロスロードであり、

古代経済のセントラルプレイスであったことをロマン豊かに紹介。

受賞に際して

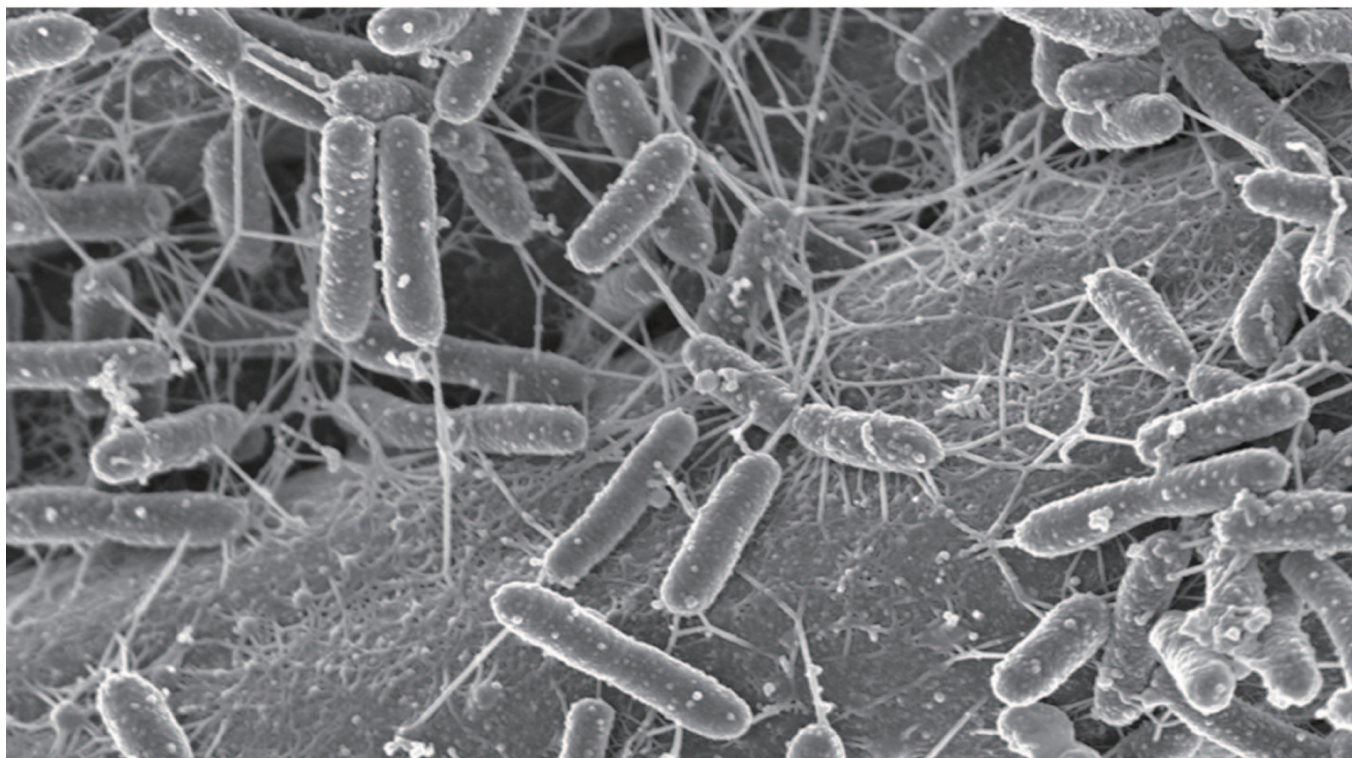
この度、弊社初めての科学技術映像祭への出品『礼文 日本最北の「遺跡の島」』が特別奨励賞をいただきましたこと、心より嬉しく思います。本当にありがとうございます。世界的に見ても貴重な礼文島の遺跡や出土品を広く世に紹介すると共に、美しい景観、咲き競う高山植物の群落、リシリコンブに代表される極上で豊かな水産物を産する島であることを伝えます。

縄文人たちが魅了されたのも納得です。幸運にも本作品が受賞できましたこと、礼文島と島に住む人たちの出逢いに心からの感謝です。
(馬場勉)

ガリレオX 電気をつくる菌・食べる菌 研究進む！電気微生物の世界

企画・製作：ワック株式会社

製作・脚本・演出：太田洋昭／助手：阿部由弥／撮影：本間秀幸



発電菌(シュワネラ菌)の電子顕微鏡像 TV:25分

製作意図

自然界には肉眼では見ることのできない微生物が数多く存在している。その中には不思議な力を持つものがたくさん見つっている。発電能力をもつ微生物もその一つで、現在、その能力を応用する研究やその仕組みを探る研究が進められているという。また一方、発電とは逆に電気を利用して生きている微生物も見つかっており、この微生物こそ生命誕生のなぞを解き明かすカギを握っているのではと研究が進んでいるという。発電する微生物や電気を利用する微生物。そんな電気微生物をめぐる研究の最前線に迫った。

シノプシス

ある田んぼの一角で、土の中にいる微生物の力で電気を起こす実験が行われていた。発電菌と呼ばれるこの微生物の正体とは？また一方で、発電菌とは逆に電子を外から体内に取り入れる微生物の研究も進められていた。その中には、電気エネルギーを使って有機物を作り出す微生物も存在することがわかってきた。この微生物は、生命誕生の場所と考えられている深海の熱水噴出孔と呼ばれる場所で生育している可能性が示唆されているという。電気微生物の研究は、

今、生命誕生のなぞをも解き明かそうとしている…。

受賞に際して

栄えある賞をいただき大変うれしく思います。以前、電気を作る発電菌の話を当番組で取材したことがありました。また別のテーマを追った回では、深海底から熱水を噴き出している熱水噴出孔での発電現象について取材してもしました。そして今回の取材を通して、そうした様々な現象が一つに結びつくという大変興味深い事実に行き着き、ワクワクするような興奮を覚えました。微生物の中には、電気エネルギーを生存戦略として活用するものたちが予想以上にたくさんいて、それらの中には、生命の起源を考える上で大変重要な微生物も見つかっています。考えて見れば私たち人間も含め、生物はその生体反応として電気を活用しています。だとすれば、生命の起源に電気エネルギーが大きな役割を果たしていても何ら不思議ではありません。電気微生物の研究は、生命の起源を解き明かす大きな可能性を秘めていると感じました。今後もこの分野の研究に注目していきます。

(太田洋昭)

作品情報 http://web-wac.co.jp/program/galileo_x/gx190113

日本のチカラ 宇宙はみんなのもの ～日本初！民間ロケット成功の先～

企画：公益財団法人 民間放送教育協会／製作：北海道放送株式会社

製作：澤出梨江、佐々木延彦、雪竹弘一／撮影：阿部翔平



MOMO3打ち上げ成功後の指令所 TV:26分

製作意図

北海道から宇宙を目指す若者たちは、失敗と改良を繰り返して、ロケットのエンジン、機体、打ち上げシステムなどを次々と開発。密着取材を始めて8年、ついに打ち上げに成功しました。データ収集が不可欠な時代、地球をまわる小型衛星の打ち上げ用ロケットの需要は今後、爆発的に高まると予想されています。何もない、誰もいない地方のデメリットが、広い土地が必要なロケット開発には大きなメリットに。新たな宇宙産業は、地方を革新的に活性化させる可能性を秘めています。令和の時代の「北海道宇宙元年」に迫ります。

シノプシス

太平洋を臨む北海道大樹町。人口5600人、酪農と漁業が主な産業の町に世界と競う宇宙ベンチャーがあります。インターステラテクノロジズ＝ロケットの開発会社です。目指すのは、ホームセンターでも買える部品での格安ロケット製造。「宇宙の価格破壊」の実現です。2019年5月、彼らの小型ロケットは国内で民間初の宇宙到達に成功。人口減少に悩む田舎町に優秀な人材が集まり、宇宙開発への夢が広がっています。

受賞に際して

このような素晴らしい賞をいただきましたことに、制作に関わった皆様へ心から感謝申し上げます。ロケット開発のベンチャー…先輩が10年前から取材を始めました。当初ロケットの知識は皆無でしたが、そんな私でも分かるように、そして宇宙開発への様々な人の思いを届けられたら、と心がけて制作しました。番組タイトルは、私の願いでもあります。この受賞をきっかけに、もっと多くの方に番組をご覧いただければ、こんな嬉しいことはありません。ぜひ一度、民間ロケットの打ち上げを間近で体験してみてください。子どもも大人も、理屈抜きで宇宙への夢に近付けます。ベンチャーの彼らの熱意と開発スピードに負けないよう、これからも取材を続けてまいります。（澤出梨江）

作品情報 http://www.minkyo.or.jp/01/2019/08/nipponnochikara_187.html

第61回 科学技術映像祭参加作品一覧

No.	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画・委託機関
自然・暮らし部門(12本)					
1	インターネット等で配信されている動画	あなたのビルは大丈夫！？	14	株式会社フジテレビジョン	東京都下水道局施設管理部排水設備課
2	映画ビデオ	どこかに美しい村はないか 幻想の村 遠野・児玉房子ガラス絵の世界より	59	田下啓子	能勢広.
3	映画ビデオ	ネズミと生きる オオヤドリカニムシの世界	8	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林研究所	
4	映画ビデオ	助ける、助かる 検証 西日本豪雨	22	株式会社映学社	
5	映画ビデオ	どこに ひなんすればよいの？ 南海トラフ地しん 大つ波がくる	19	株式会社映学社	
6	映画ビデオ	対策型胃内視鏡検診の普及を目指して 富士フィルムメディカルが果たすべきこと	9	オフィスジャスト	富士フィルムメディカル株式会社
7	TV	メ〜テレドキュメント 常滑エピテーゼ カタチとところ	52	名古屋テレビ放送株式会社	
8	TV	人類 vs プラスチック	52	RKB毎日放送株式会社	
9	TV	IPC & WOWOW パラリンピック・ドキュメン タリーシリーズ WHO I AMアフガン帰り 不屈のカヌー王者：カーティス・マグラス	50	株式会社共同テレビジョン	
10	TV	命巡る海 知床・シャチの楽園	89	NHK札幌放送局	
11	TV	ガリレオX 忍者の実像 最新研究が解き明かす真の姿	25	ワック株式会社	
12	TV	ガリレオX 続・ウズベキスタンで仏教遺跡を探る 仏塔の発掘調査に密着取材	28	ワック株式会社	
研究・技術開発部門(13本)					
13	インターネット等で配信されている動画	研究者が語る！1分解説 全ての光を吸収する究極の暗黒シート	2	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	
14	インターネット等で配信されている動画	海底熱水鉱床採鉱・揚鉱パイロット試験に おける世界初の連続揚鉱の成功	4	大日本印刷株式会社	独立行政法人石油天然ガス・金属 鉱物資源機構
15	インターネット等で配信されている動画	植物細胞とペプチドのおはなし	4	有限会社デンパクファノデザイン	沼田オルガネラ反応クラスタープ ロジェクト
16	インターネット等で配信されている動画	次世代浮体式洋上風力発電システム ひびき建造の記録	6	株式会社CNインターボイス	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発 機構
17	映画ビデオ	赤ちゃんの成長に影響します！ タバコの煙で起こる健康被害	24	株式会社映学社	
18	TV	映像'19 未来医学者 世界初"iPS心筋"の10年	50	株式会社毎日放送	
19	TV	伊勢湾台風60年 色と記憶	50	株式会社CBCテレビ	

No.	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画・委託機関
研究・技術開発部門					
20	TV	ガリレオX 電気をつくる菌・食べる菌 研究進む！電気微生物の世界	25	ワック株式会社	
21	TV	ガリレオX 農業と漁業の融合 アクアポニックス 水と物質を循環させる新しい取り組み	25	ワック株式会社	
22	TV	情熱大陸 天文学者・本間希機	23	株式会社毎日放送	
23	その他	ロボットの事故は誰かのせい？ 近未来のロボット社会での三つの事例 コミュニケーションロボットが騙された！？	7	有限会社デンバクファノ デザイン	科学技術振興機構(JST) 社会技術研究開発センター(RISTEX) 「人と情報のエコシステム」領域
24	その他	ロボットの事故は誰かのせい？ 近未来のロボット社会での三つの事例 自動運転車は誰を守るべきか？	4	有限会社デンバクファノ デザイン	科学技術振興機構(JST) 社会技術研究開発センター(RISTEX) 「人と情報のエコシステム」領域
25	その他	ロボットの事故は誰かのせい？ 近未来のロボット社会での三つの事例 パワーサポートロボットの暴走	6	有限会社デンバクファノ デザイン	科学技術振興機構(JST) 社会技術研究開発センター(RISTEX) 「人と情報のエコシステム」領域
教育・教養部門(27本)					
26	インターネット 等で配信 されている動画	はこでて国際科学祭 2018-『環境』から函館のしあわせを考える。- 2019-「食」が育む、函館の未来-	5	有限会社 ビデオ・ザ・キッド	サイエンス・サポート函館
27	インターネット 等で配信 されている動画	深海VR - 海底に降り立つ	7	国立研究開発法人 海洋研究開発機構	
28	インターネット 等で配信 されている動画	ダイオウイカ大解剖 巨大生物 進化の謎	50	株式会社ツードッグ	
29	映画 ビデオ	礼文 日本最北の「遺跡の島」	16	北海道映像記録株式会社	礼文町教育委員会
30	映画 ビデオ	「やさしく」の意味 おばあちゃんは認知症だった	33	株式会社映学社	
31	映画 ビデオ	発達障害の対処法 当事者からのメッセージ	23	株式会社映学社	
32	映画 ビデオ	カミノカタチ	15	株式会社RSKプロビジョン	公益財団法人紙の博物館
33	映画 ビデオ	IMT IN CONSTRUCTION	24	東京大学総合研究博物館	
34	映画 ビデオ	宇宙の絶景 第2巻 銀河系 星の生と死	52	株式会社 ユーキャン	
35	映画 ビデオ	宇宙の絶景 第3巻 果てしなき宇宙	54	株式会社 ユーキャン	
36	映画 ビデオ	宇宙の絶景 第4巻 地球 美しき星	55	株式会社 ユーキャン	

No.	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画・委託機関
37	映画 ビデオ	3日間クラブ	27	北九州市教育委員会	株式会社コルト
38	映画 ビデオ	重監房資料館開館五周年記念作品 遺族ふたり パート1「知られてはならない秘密」 パート2「仙太郎おじさん 貴方は確かにそこにいた」 パート1「患者の子と呼ばれて」 パート2「展示資料に親族を見つけて」	80	岩波映像株式会社	重監房資料館
39	映画 ビデオ	地球温暖化影響学習コンテンツ	10	凸版印刷株式会社 先端表現開発本部 ビジュアルコ ミュニケーション開発部	栃木県環境森林部環境森林政策課
40	映画 ビデオ	金属加工シリーズ 工具研削の基礎	35	日刊工業新聞社	
41	映画 ビデオ	NCプログラムの基礎 マシニングセンタ編	38	日刊工業新聞社	
42	TV	海の庭	45	山口放送株式会社	
43	TV	マサックのスーパー実験室	53	青森朝日放送株式会社	日本原燃株式会社
44	TV	徳光&木佐 知りたいニッポン！ 未来へつなぐ 生物多様性	24	株式会社日テレ アックスオン	
45	TV	NHKスペシャル スペース・スペクタクル プロローグ はやぶさ2の挑戦	49	日本放送協会	
46	TV	日本のチカラ 生より旨い冷凍の魚 ～三陸は世界の台所～	26	株式会社IBC岩手放送	公益財団法人 民間放送教育協会
47	TV	日本のチカラ 完成！クレープロボット ～ローテクが開く未来の食卓～	26	静岡放送株式会社	公益財団法人 民間放送教育協会
48	TV	日本のチカラ あいつなぐ ～ジャパングルーに魅せられた高校生たち～	26	四国放送株式会社	公益財団法人 民間放送教育協会
49	TV	日本のチカラ TSUNAMI VIOLIN ～未来へ紡ぐ優しき音色～	26	テレビ朝日映像株式会社	公益財団法人 民間放送教育協会
50	TV	ガリレオX 科学における仮説とはなにか 仮説が世界を前へと進める	25	ワック株式会社	
51	TV	T V アニメ「DR. STONE」	60	東宝株式会社	
52	TV	日本のチカラ 宇宙はみんなのもの ～日本初！民間ロケット成功の先～	26	北海道放送株式会社	公益財団法人 民間放送教育協会

第61回 科学技術映像祭 開催要綱

目 的

科学技術を正確にわかりやすく伝える優れた映像を選奨することにより、科学技術への関心を喚起するとともにその普及と向上をはかり、社会一般の科学技術教養の向上に資することを目的とする。

行 事

- (1)優秀作品の選定
- (2)入選作品の表彰(科学技術週間行事)
- (3)入選作品の発表

主 催

- (公財)日本科学技術振興財団
- (公社)映像文化製作者連盟
- (公財)つくば科学万博記念財団
- (一財)新技術振興渡辺記念会

運 営

- 第61回科学技術映像祭運営委員会
- (1)運営委員会は本行事に関するすべてのことを決定する。
- (2)運営委員会は委員7名をもって構成する。

後 援

- 文部科学省、日本放送協会、(一社)日本民間放送連盟
- (一社)日本新聞協会、(一財)日本視聴覚教育協会
- (一財)経済広報センター
- 国立研究開発法人科学技術振興機構、全国科学館連携協議会
- (公財)民間放送教育協会

募集期間

2019年12月2日～2020年1月24日(必着)

応募資格

日本所在の製作者、企画者(スポンサー)、テレビ局、学術研究機関・教育機関および個人が製作した作品。日本に所在を持たない場合でも、作品が日本国内で公開(放送、上映または販売)された作品は参加できる。

募集要件

- (1)2019年1月1日から2020年1月24日までに完成した作品で本映像祭へ初出品だること。
- (2)参加作品の上映時間は原則として90分以内
また、短編の作品も参加を歓迎する。
- (3)一応募者からの総参加作品数は5本までとし、総上映時間は180分を限度とする。
- (4)メディア
a.映画・ビデオ b.TV番組 c.インターネット等で配信・配布されている動画
注1:ヘッドマウントディスプレイ等特殊な機器を使わないと再生できないVRコンテンツ等は対象外とする。
注2:メディアについて応募に該当するかわからない場合は事務局に問い合わせること。

募集部門

参加作品は科学技術に関する映像で、次の部門のいずれかに参加できる。

- (1)自然・暮らし部門
 - a. 自然、環境、環境、生物生態記録
 - b. 暮らしの脅威(たとえば、防災、安全などに関するもの)や疾病の治療・予防に関する作品で、研究・技術開発部門に該当しないもの
- (2)研究・技術開発部門
 - a. 最新の科学技術・産業技術および研究開発などを中心に、その現状と将来などの応用面を紹介した作品(たとえば、エネルギー、ITナノテクノロジー材料、機械、バイオテクノロジー、農林水産分野などに関するもの)
 - b. 基礎医学、臨床医学、歯学、薬学、保健の研究を紹介した作品
 - c. 基礎研究および学術研究を紹介した作品(科学者・技術者が研究を進める手段として製作した映像や研究業績発表のために用いた映像を含める)
- (3)教育・教養部門
 - a. 主に小学生、中学生、高校生および社会一般を対象として製作された作品で、物理、化学、地学、生物、技術・家庭(ものづくり教育を含む)など科学教育に関する作品
 - b. 科学技術の教養に関する作品。たとえば、技術史、考古学、人類学、評伝などに関するものを含む。
 - c. (1)(2)各部門に該当しない作品

賞

- 内閣総理大臣賞 1作品(最優秀作品)
賞状および副賞(カップ)
- 文部科学大臣賞(予定) 3作品(部門各1作品)
賞状および副賞(楯)
- 部門優秀賞 6作品 賞状
- 新技術振興渡辺記念会理事長賞 1作品 賞状および副賞(楯)
- つくば科学万博記念財団理事長賞 1作品 賞状および副賞(楯)
- 科学技術館館長賞 1作品 賞状
- 特別奨励賞 賞状
- 科学技術映像に関する新たな取り組みや、科学技術映像の活用による理解増進への貢献が顕著な作品に対し、特別奨励賞を贈ることができる。
- 賞は企画者(含むスポンサー)および製作者それぞれに贈る。

審 査

- (1)二段階審査(一次審査および本審査)
- (2)審査委員
運営委員会から委嘱された審査委員10名程度をもって審査委員会を構成する。
審査委員会には運営委員会より委嘱された委員長1名、副委員長2名以内を置く。
- (3)審査方法 審査委員会で決定する。
- 審査期間 2020年2月
- 発 表 2020年3月上旬(予定)
(プレスリリースおよび科学技術映像祭HP上で発表)
- 表 彰 式 2020年4月17日(金) 科学技術館サイエンスホール
- 上 映 会 2020年4月～2021年3月
全国の科学館等にて受賞作品を上映

申込方法

- (1)科学技術映像祭公式WEBサイト URL <http://ppd.jsf.or.jp/filmfest/>よりWEB申込の上、プリントした申込書に捺印の上、必要書類および作品を下記宛まで提出してください。
WEB申込ができない場合は下記までご相談ください。
- (2)出品作品の提出形態: DVDプレーヤー、Blu-rayプレーヤーで再生できる形態か、パソコンで再生できる汎用的な動画ファイル形式(MP4等)の動画ファイルを、DVDディスクやBlu-rayディスク、USBメモリ等の媒体に入れて提出してください。
その他の形態で参加ご希望の場合は事務局にご相談下さい。
- (3)提出書類等
 - 申込書 1通
 - 出品作品
 - パンフレット等の印刷物 5部(あれば)出品作品は事務局より後日返却いたします。(送料:事務局負担)
- (4)申込締切
2020年1月24日(金)必着

<提出・問合せ先>

(公社)映像文化製作者連盟 「科学技術映像祭」係
〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町17-18
藤和日本橋小網町ビル7F
TEL.03-3662-0236 FAX.03-3662-0238

注意事項

- (1)参加にあたっては、必要な著作権処理を行なっておいてください。万一、第三者から権利侵害、損害賠償などの主張がなされたときは、参加者自らの責任と負担で対処するものとし、主催者は一切の責任を負いません。
- (2)外国語版を出品するときは、日本語のスク립トを添付してください。
- (3)参加作品はストーリーがある動画映像作品とします。TV放送用途などでCM等が入った作品については、CM等をカットして一続きとしてください。
- (4)科学技術映像祭の入選作品を広く活用する観点から、広報活動や全国の科学館等での入選作品発表上映会や、NHK等での放送に協力してください。受賞作品は、Webサイト、新聞報道等に掲載する広報資料用に作品の写真データの提供と発表上映会用にDVD、Blu-ray等のコピー、ファイル(MP4等)の提供をお願いします。

【科学技術映像祭 事務局】

(公財)日本科学技術振興財団 人財育成部
〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2番1号
TEL:03-3212-8487 FAX:03-3212-0014 E-mail:filmfest@jsf.or.jp

運営委員 ◎委員長

- ◎永野 博 (公社)日本工学アカデミー 専務理事
菱山 豊 文部科学省科学技術・学術政策局 局長
若林 光次 (公財)日本科学技術振興財団 理事
中原 徹 (公財)つくば科学万博記念財団 理事長
塚田 芳夫 (公社)映像文化製作者連盟 会長
中嶋 清美 (公社)映像文化製作者連盟 事務局長
佐藤 征夫 (一財)新技術振興渡辺記念会 理事

審査委員 ◎委員長 ○副委員長

- ◎小出 重幸 日本科学技術ジャーナリスト会議 理事
○丸山 剛司 中央大学理工学部 特任教授
○高橋真理子 朝日新聞 科学コーディネーター
岡田 秀則 独立行政法人国立美術館 国立映画アーカイブ 主任研究員
木村 真一 東京理科大学 理工学部教授
蔵並 真一 (一財)新技術振興渡辺記念会 技術参事
杉浦 淳二 映像・展示プロデューサー
鈴木 ゆめ 横浜市立大学附属市民総合医療センター 一般内科教授・部長
武部 俊一 日本科学技術ジャーナリスト会議 理事
田嶋 炎 (一社)日本民間放送連盟 番組・著作権部長
土屋 敏之 日本放送協会 解説委員
長谷川 高士 ルネサンス・アカデミー(株) 教務部
長尾 英二 (公財)日本科学技術振興財団

主催団体

公益財団法人日本科学技術振興財団

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1 Tel.03(3212)8487 Fax.03(3212)0014

公益社団法人映像文化製作者連盟

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町17-18 藤和日本橋小網ビル7階 Tel.03(3662)0236 Fax.03(3662)0238

公益財団法人つくば科学万博記念財団

〒305-0031 茨城県つくば市吾妻2-9 つくばエキスポセンター Tel.029(858)1100 Fax.029(858)1107

一般財団法人新技術振興渡辺記念会

〒105-0013 東京都港区浜松町1-25-13浜松町NHビル5階 Tel.03(5733)3881 Fax.03(5733)3883



<http://ppd.jsf.or.jp/filmfest/>